

第 **199** 期 第2四半期

 **ユニチカ株式会社**

株主通信

平成20年4月1日～平成20年9月30日

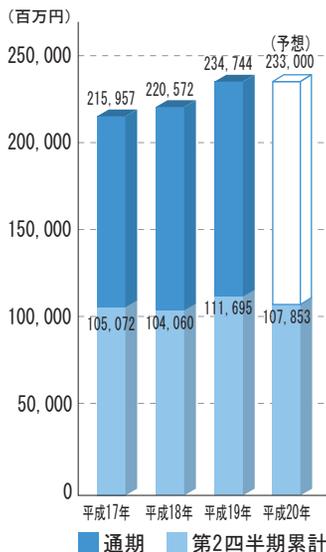
2009 ユニチカマスコットガール

くつな しおり
忽那 汐里

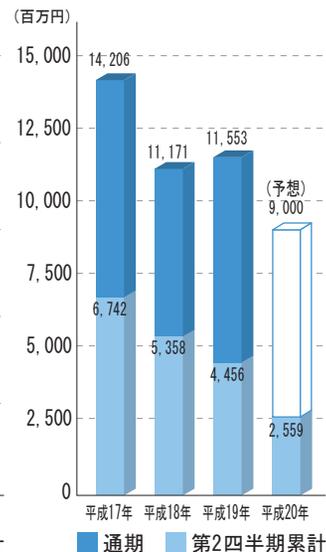


業績の推移

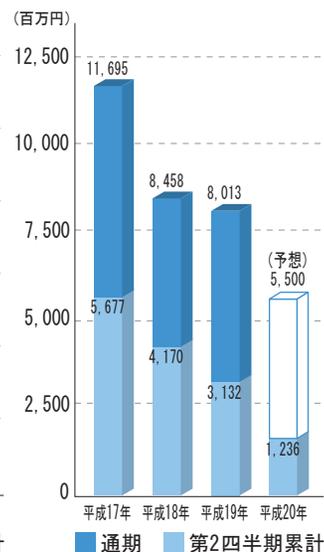
■ 連結売上高



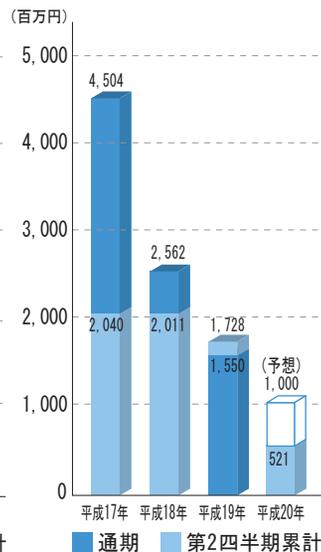
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益



■ 当期 (第2四半期) 純利益



※当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。なお、前連結会計年度以前につきましては、参考として中間連結会計期間の数値で表示しております。

■ 事業セグメント別 連結売上高 連結営業利益

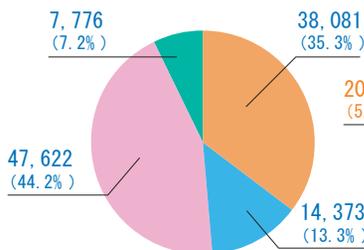
- 高分子事業
- 環境・機能材事業
- 繊維事業
- 生活健康・その他事業

連結売上高 合計 107,853百万円
 連結営業利益 合計 2,559百万円

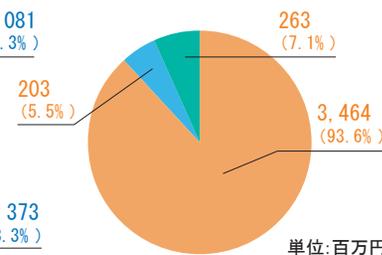
※事業セグメント別の連結営業利益は部門間消去前の数値で表示しております(合計3,702百万円)。

※繊維事業の連結営業利益は損失に転じたので構成比で表示しておりません。

連結売上高 (構成比)



連結営業利益 (構成比)



単位:百万円

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、第199期第2四半期累計期間（平成20年4月1日から同9月30日まで）の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期累計期間のわが国経済は、資源価格の高騰による企業収益の悪化、物価上昇に伴う個人消費の減退、欧米景気の減速、また期末に相次いだ米国の金融・証券会社の破綻・再編の動きやその後の金融・株式市場の不安定化の影響などにより、景気は全般的に後退色を強めました。

このような状況の下、当社グループは、今年度が最終年度となる中期経営3カ年計画『New Progress (NP) - 8』に基づく施策展開を推進するとともに、製品価格の改定を継続的に進めてまいりましたが、石化原燃料を中心とした価格上昇の影響は想定以上であり、また景気の減速等により環境事業、繊維事業を中心に収益が減少しました。この結果、当第2四半期累計期間の連結売上高は107,853百万円（前年同期比3,841百万円減）、連結営業利益は2,559百万円（前年同期比1,896百万円減）、連結経常利益は1,236百万円（前年同期比1,896百万円減）、連結四半期純利益は521百万円（前年同期比1,206百万円減）と、当初の計画を下回る厳しい結果となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、当社グループは、足下の経営を取り

巻く環境や今後の原燃料価格の更なる上昇リスクなどを踏まえ、あらためて今後の収益の改善に努めてまいります。具体的には、継続的な価格改定の取り組みはもとより、不採算分野の事業見直しや、生産・販売・流通各段階での施策を通じてコスト構造の見直しに努めるとともに、中期経営3カ年計画『NP - 8』に掲げる強化施策、すなわち高分子事業を中心とした主力分野の強化及び機能樹脂、ガラス関連素材等機能材料、産業資材の各分野における差別化戦略の推進などに注力してまいります。さらにこれら事業の成長を柱として将来にわたり持続可能な企業体の構築に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月



取締役社長

大西 音文

高分子事業全体では、原燃料価格の更なる上昇による採算への影響に対し、製品価格の改定を継続的に推進するとともに、コストダウン施策により収益確保に努めました。

フィルム事業では、ナイロンフィルムは、国内販売が伸び悩みましたが、製品価格の改定が進捗するとともに海外子会社の収益改善が進みました。ポリエステルフィルムは、工業分野では家電・エレクトロニクス関連などで在庫調整に入ったものの、包装分野で差別化フィルムが伸長するなど、全体として数量を伸ばしました。この結果、事業全体ではコストダウンが寄与し増収増益となりました。樹脂事業では、ナイロン樹脂が自動車関連の減産に伴い需要が減少しましたが、ポリアリレート樹脂「Uポリマー」及びポリエステル樹脂の荷動きは堅調でした。この結果、事業全体で増収、利益は横ばいとなりました。不織布事業では、スパンボンドは一般生活資材、カーペット分野などは比較的底固かったものの、土木、建設、自動車関連を中心として低調に推移するとともに、価格改定がやや遅れ採算が悪化しました。綿

スパンレースは、化粧雑貨用途を中心に堅調に推移するとともに、価格改定にも進捗が見られました。この結果、事業全体で売上げは横ばいでしたが減益となりました。バイオマスプラスチック「テラマック」は、引き続きフィルム、樹脂、不織布、繊維の4素材展開を推進し、欧州向け寝装品用途、各種雑貨用途、耐熱耐久性プラスチック用途などへの採用が進むとともに、世界最速レベルを確立している結晶化促進技術により、成形サイクルの大幅な短縮や製造コストの低減を実現しております。

以上の結果、高分子事業の売上高は38,081百万円（前年同期比3,388百万円増）、営業利益は3,464百万円（前年同期比459百万円増）となりました。



スパンボンドカーペット基布



「テラマック」使用ヘッドレストカバー



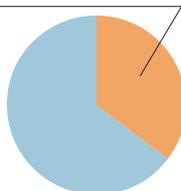
ナイロンフィルム
「エンブレムNC」



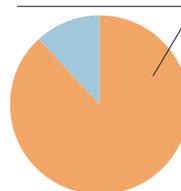
自動車ターンランプ
アンバーキャップ

■高分子事業 売上高営業利益（構成比）

売上高
38,081百万円 (35.3%)



営業利益
3,464百万円 (93.6%)



環境事業では、既受注案件の工事進捗に伴い廃棄物処理分野を中心として売上げが増加したものの、全体として自治体による事業発注量の低迷、施工管理要求の厳格化に伴う追加コストの発生などにより収益が減少するとともに、メンテ・薬剤分野についても苦戦しました。この結果、事業全体で減収減益となりました。機能材事業では、ガラス繊維は、産業資材分野が建築・工事関係の需要低迷に伴い全体として収益が低調に推移するとともに、ICクロス分野についても電子部品業界の市況悪化の影響を受けました。ガラスビーズは、工業用途や海外向け反射材用途などが堅調に推移するとともに、活性炭繊維が気相用途や廃液浄化用途などで順



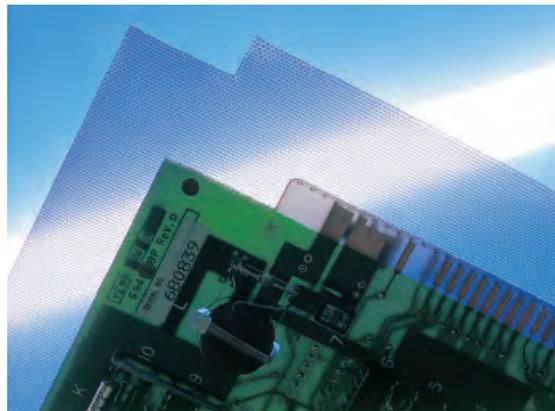
繊維ろ過による合流式
下水道改善処理システム



「ユニビーズ」使用道路
(センターライン)



活性炭繊維フィルター



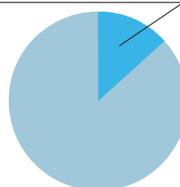
プリント基板用ICクロス

調に推移しました。この結果、事業全体で微減収、減益となりました。

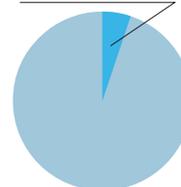
以上の結果、環境・機能材事業の売上高は14,373百万円(前年同期比98百万円減)、営業利益は203百万円(前年同期比498百万円減)となりました。

■環境・機能材事業 売上高営業利益(構成比)

売上高
14,373百万円(13.3%)



営業利益
203百万円(5.5%)



合成繊維事業では、原燃料価格の上昇による採算悪化に加え、景況の悪化に伴う需要の低迷により建築、土木、自動車関連など産業資材の広い範囲で需要の落ち込みが見られ、ナイロン繊維、ポリエステル長繊維・短繊維の各素材とも低調に推移しました。ビニロン事業は、アスベスト代替のセメント補強用ビニロン繊維の輸出が堅調に推移したものの、国内は土木・建築資材分野での需要低迷の影響を受けました。天然繊維事業では、全体として販売が低迷し、特にユニフォーム分野が市況悪

化の影響により大幅に落ち込むとともに、在庫低減へ向けた自家工場での生産調整の影響によるコストアップが生じました。また、原燃料価格高騰の影響もあり、全般的に収益は低迷しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は47,622百万円（前年同期比4,187百万円減）、営業損失は228百万円（前年同期は696百万円の利益）となりました。



カーシート用途



衣料用途



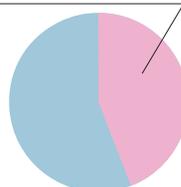
建設資材用途

■ 繊維事業 売上高営業損失（構成比）

売上高
47,622百万円 (44.2%)

営業損失
228百万円 (一%)

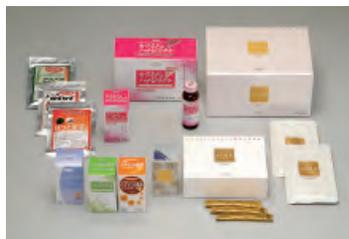
※営業利益は損失に転じました。



事業セグメント別の状況

生活健康・その他事業

生活健康事業では、ハナビラタケ関連の健康食品の販売などが減少したことにより売上は減少しましたが、セラミド、アラビノースなどの食品機能素材が大手ユーザーの主力商品に採用されるなど堅調に推移し、採算に改善がみられました。メディカル事業では、医用材料分野での償還価格改



健康補助食品

定の影響もあり、事業全体で減収減益となりましたが、循環系カテゴリーの新製品や酵素分野での伸



臨床診断薬



アラビニスト



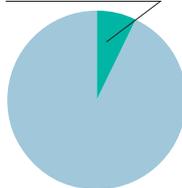
不動産関連事業

長が見られました。その他事業では、不動産関連事業に係る収益が減少しました。

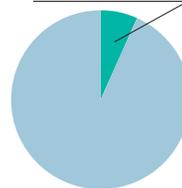
以上の結果、生活健康・その他事業の売上高は7,776百万円（前年同期比2,943百万円減）、営業利益は263百万円（前年同期比823百万円減）となりました。

■生活健康・その他事業 売上高営業利益（構成比）

売上高
7,776百万円(7.2%)



営業利益
263百万円(7.1%)



その他の課題

海外展開については、ナイロンフィルムのグローバル展開に加え、樹脂事業、不織布事業、機能材事業などを中心に、アジア全域へのオペレーション及び欧州向けビジネスの強化を推進してまいります。

トータルコストダウンについては恒常的課題として認識し、引き続き製造原価の低減、販売管理費の徹底的な効率化、資金運営の効率化と有利子負債の削減、環境配慮も踏まえた天然ガス転換によるエネルギーの効率化などに取り組み、コスト構造の抜本的な見直しを図ってまいります。

財務諸表（連結）

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)	科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	12,285	13,045	支払手形及び買掛金	34,388	38,385
受取手形及び売掛金	43,664	50,039	短期借入金	71,552	72,273
商品及び製品	39,413	39,171	1年内返済予定の長期借入金	31,616	56,489
仕掛品	20,233	18,167	1年内償還予定の社債	400	400
原材料及び貯蔵品	4,920	4,883	未払法人税等	534	952
その他	7,781	8,536	賞与引当金	2,093	2,265
貸倒引当金	△92	△65	完成工事補償引当金	23	116
流動資産合計	128,206	133,779	その他	18,418	15,290
固定資産			流動負債合計	159,027	186,172
有形固定資産			固定負債		
土地	106,632	107,382	社債	600	800
その他（純額）	59,081	56,629	長期借入金	88,320	62,823
有形固定資産合計	165,713	164,012	退職給付引当金	3,901	3,483
無形固定資産			役員退職慰労引当金	342	408
のれん	471	554	その他	16,542	16,977
その他	896	944	固定負債合計	109,706	84,492
無形固定資産合計	1,367	1,498	負債合計	268,734	270,665
投資その他の資産			純資産の部		
その他	10,637	10,580	株主資本		
貸倒引当金	△852	△826	資本金	23,798	23,798
投資その他の資産合計	9,784	9,753	資本剰余金	1,661	1,661
固定資産合計	176,865	175,264	利益剰余金	6,683	7,196
			自己株式	△45	△43
			株主資本合計	32,097	32,612
			評価・換算差額等		
			その他有価証券評価差額金	△127	△120
			繰延ヘッジ損益	△2	△11
			土地再評価差額金	2,914	3,484
			為替換算調整勘定	△2,365	△2,354
			評価・換算差額等合計	418	998
			少数株主持分	3,821	4,767
			純資産合計	36,337	38,378
資産合計	305,071	309,043	負債純資産合計	305,071	309,043

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	107,853
売上原価	89,706
売上総利益	18,147
販売費及び一般管理費	15,587
営業利益	2,559
営業外収益	
受取利息	131
受取配当金	84
持分法による投資利益	68
その他	1,487
営業外収益合計	1,772
営業外費用	
支払利息	1,944
出向者人件費	599
その他	551
営業外費用合計	3,095
経常利益	1,236
特別利益	
固定資産売却益	32
特別利益合計	32
特別損失	
固定資産処分損	255
投資有価証券評価損	318
事業構造改善費用	745
その他	378
特別損失合計	1,697
税金等調整前四半期純損失(△)	△429
法人税、住民税及び事業税	357
法人税等調整額	△1,373
法人税等合計	△1,016
少数株主利益	65
四半期純利益	521

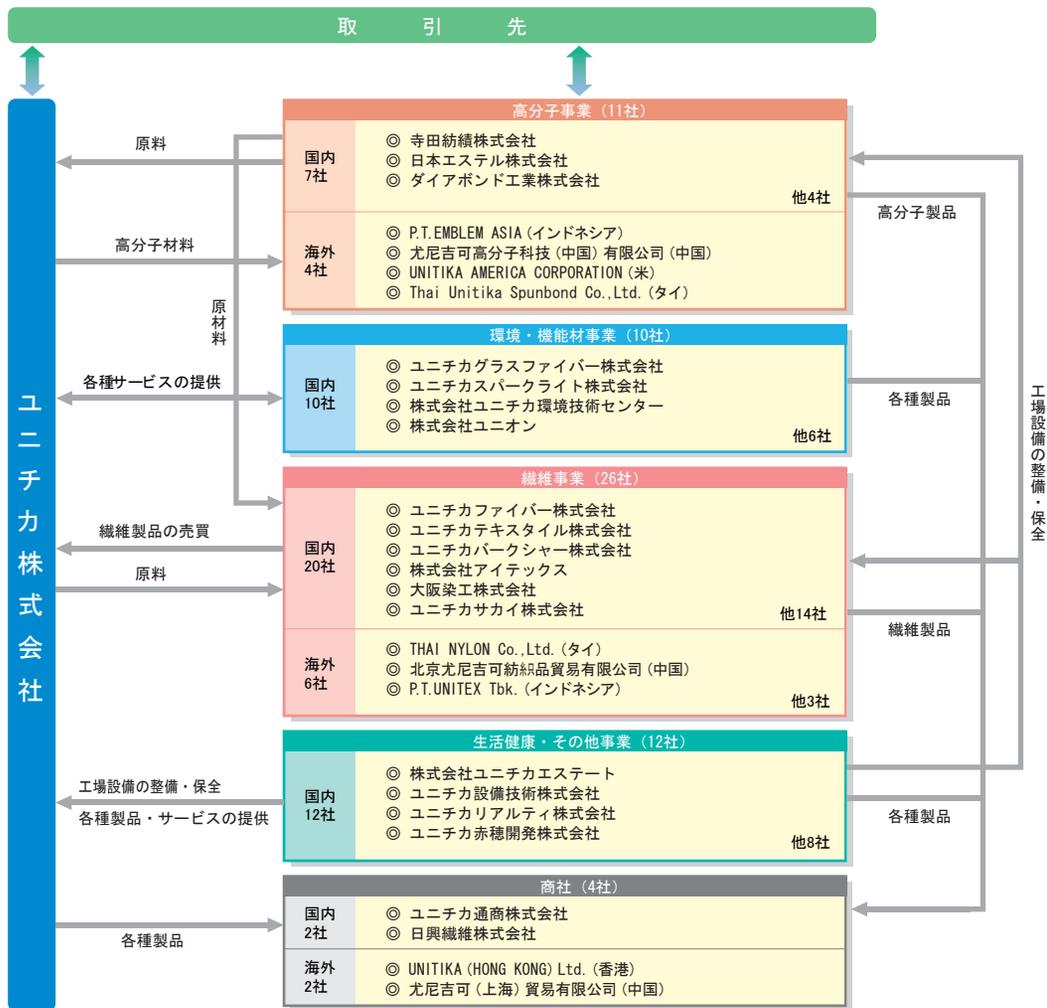
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△429
減価償却費	3,494
貸倒引当金の増減額(△は減少)	97
支払利息	1,944
売上債権の増減額(△は増加)	6,545
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,117
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,081
その他	973
小計	6,426
利息及び配当金の受取額	226
利息の支払額	△1,947
法人税等の支払額	△693
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,011
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額(△は増加)	36
投資有価証券の取得による支出	△12
投資有価証券の売却による収入	1
有形固定資産の取得による支出	△3,841
有形固定資産の売却による収入	210
その他	△354
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,960
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,211
長期借入れによる収入	42,114
長期借入金の返済による支出	△41,326
社債の償還による支出	△200
配当金の支払額	△935
その他	△268
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,827
現金及び現金同等物に係る換算差額	54
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,722
現金及び現金同等物の期首残高	13,209
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,487

※当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

グループの概要



国内 51社	◎ 連結子会社 42社 ○ 非連結子会社 7社 △ 関連会社 2社	海外 12社	◎ 連結子会社 11社 △ 関連会社 1社
-----------	---	-----------	--------------------------------------

(平成20年9月30日現在)

ユニチカ・ド・ブラジル

ユニチカ・ド・ブラジル有限会社は、1936年に設立された日伯綿花株式会社(現プラスコット有限会社)を足掛かりに、1958年にブラジルサンパウロ州に綿紡績の会社として設立され、本年、創立50周年を迎えました。ブラジル国産の綿花を使用し、50,000錘の設備で製造した綿糸及び混紡糸はブラジル国内で販売されています。

2006年にはISO9001(品質管理マネジメントシステム)の認証を取得し、要求品質の高度化に対応した製品を市場に供給しています。

BRICsとして話題になっているブラジルは今後も着実な経済発展が期待されており、当社もその一端を担っています。



事務所外観



工場外観



生産設備



創立記念パーティ



受電所

社名: Unitika do Brasil Indústria Têxtil Ltda.
所在地: Via Anhanguera Km125, Americana, SP, Brasil
電話番号: + (55) -19-3468-2288
FAX番号: + (55) -19-3468-2313
<http://www.unitika.com.br/>

熟成爆砕製法

熟成爆砕黒にんにく

ユニチカが新しく開発した「熟成爆砕黒にんにく」は、国産にんにくの最高品種として有名な青森県田子(たっこ)町の「福地ホワイト六片種」を特殊な方法により栄養成分が凝縮した黒にんにくへと熟成させ使用しています。この黒にんにくをポン菓子の製法に似た特殊な爆砕加工により、微細な多孔構造を持った黒にんにくパウダーへと生まれ変わらせます。また、爆砕加工は、にんにく特有の臭いを抑え、有用成分(S-アリルシステインなど)を増加させることができます。さらにオリーブ油と黒こしょうの抽出物をプラスしてカプセルにギュッと凝縮し、「熟成爆砕黒にんにく」をつくりあげました。臭いを気にすることなく、体のすみずみまで黒にんにくの栄養を取り入れることができる健康補助食品です。



近鉄百貨店 新・商業スポット「^{アンド}and」に採用

ユニファイヤーガード® コーナータイプ

ユニチカ設備技術(株)の「ユニファイヤーガード®」は、軽量で柔軟なシリカクロスでできた、最先端の防火・防煙・耐火スクリーンです。中でも「ユニファイヤーガード® コーナータイプ」は、コーナー部分に耐熱ファスナーを使用することで、通行の妨げとなるコーナー部分の方立(柱)をなくし、すっきりとした空間づくりを可能にします。優れた耐火性、遮煙性、安全性に加え、デザインをいかした空間造りができる特長が認められ、9月に大阪の阿倍野にオープンした近鉄百貨店 新・商業スポット「^{アンド}and」で採用されました。1階から4階までの吹き抜け空間(光の注ぐ中庭)をいかす特定防火設備です。



京阪電車中之島線開通に合わせた新型車両に採用

ティンクル®

鉄道車両の火災対策基準の改正により、不燃性、耐溶融滴下性を合わせ持ち、安全性を有する材料が強く求められるようになってきました。ユニチカは不燃材料であるガラスクロスに高付加価値を持たせる研究を進め、特殊樹脂をコーティングした「ティンクル®」を開発しました。「ティンクル®」は煙や有毒ガスの発生がなく、静電気を帯びにくいため埃などの汚れが附着しにくく、ホルムアルデヒドの発生もありません。その優れた性能が認められ、10月19日に開通した京阪電気鉄道株式会社・中之島線の新型車両3000系の全照明グローブに採用されました。柔らかな照度を演出するとともに軽量化も実現し、省エネルギー化にも寄与します。今後、JR及び関連各社、各私鉄、地下鉄、車両メーカー、灯具メーカーへのPR活動を進めていきます。



ユニチカマスコットガール忽那汐里をモデルに起用

2009年ユニチカカレンダー

2009年ユニチカカレンダーには、ユニチカマスコットガールとして2年目を迎えた忽那汐里(くつなしおり)を起用いたしました。オーストラリアに生まれ育った彼女にとって、近くて遠かった故郷・日本。今回のカレンダーでは彼女がいちばん知りたくて、もっと深く触れたいと思っている“日本”で撮影を行いました[ロケ地:沖縄・北海道(札幌、小樽)]。好奇心という無限のエネルギーがあふれる15歳の彼女にとって、未知の日本の旅は自分発見の旅でもありました。カレンダーのテーマは、『a beaming smile』(ビーミング・スマイル)。自己表現する力を身につけ成長した忽那汐里が輝きを放ちます。

ロケ日記をホームページでご覧いただけます。

<http://www.unitika.co.jp/mg/2008/>



エネルギー燃料転換による温室効果ガス排出削減

ユニチカグループは、エネルギー使用量の削減に加え、石炭から重油、重油から天然ガスと過去2回にわたってエネルギーの燃料転換を図り、CO₂の大幅な削減を達成することができました。

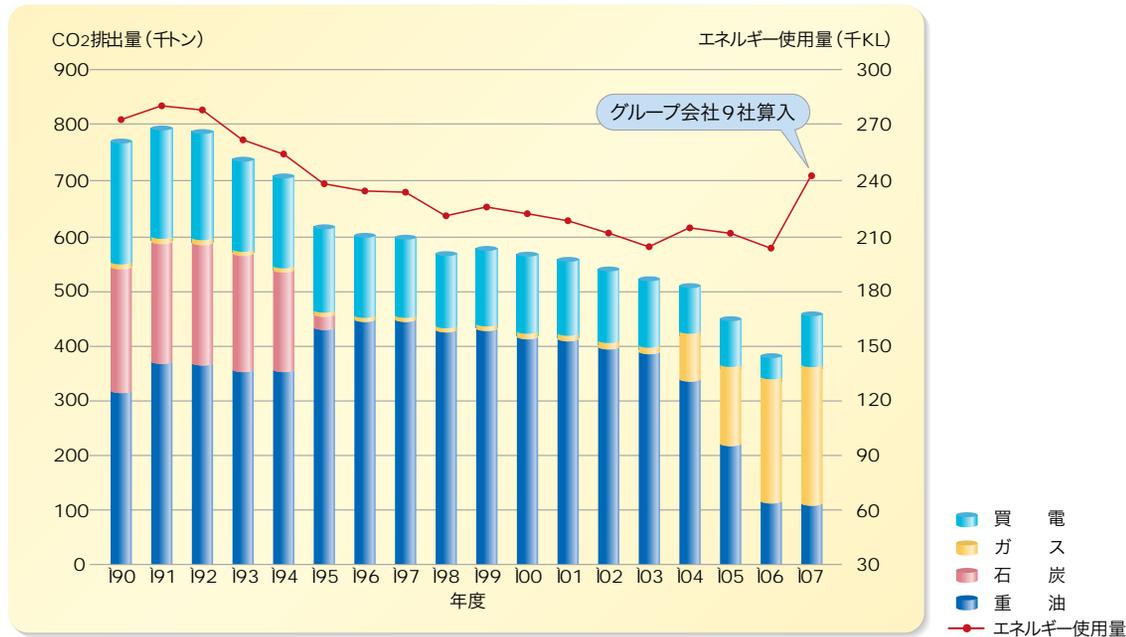
温室効果ガス削減の基準年である1990年には、エネルギー燃料の石炭を起因とする温室効果ガスの発生割合は30%近くを占めていました。その後、1995年には宇治事業所の自家発電設備用の燃料を石炭から重油へと燃料転換をいたしました。

そして2004年から2006年にかけて、宇治事業所そして岡崎事業所と続いてガスコージェネ発電設

備を稼働させ、重油からより環境負荷の小さな天然ガスへとエネルギーの燃料転換をいたしました。その結果、エネルギー燃料におけるガス燃料への依存度はCO₂発生ベースで2003年の2%から2007年度には55%まで向上しました。この2回のエネルギーの燃料転換により、温室効果ガスの排出量は1990年の基準年を100%とすると、2007年には61%となり温室効果ガスを大幅に削減するとともに、SO_x、ばいじんなどの環境負荷低減にも大きく貢献しています。

▶ 詳しくはHPをご覧ください。
(<http://www.unitika.co.jp/csr/>)

● ユニチカグループエネルギー起源CO₂排出量



株式の状況 会社の概要

株式の状況(平成20年9月30日現在)

1. 発行済株式の総数	475,969,000株	
2. 株主数	69,267名	
3. 単元株主数	58,559名	
4. 大株主		
株主名	株式数	出資比率
株式会社三菱東京UF J銀行	23,345 千株	4.90%
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口4G)	13,801	2.89
大同生命保険株式会社	12,650	2.65
ユニチカ従業員持株会	11,642	2.44
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	10,789	2.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,523	1.79
日本生命保険相互会社	7,726	1.62
東京海上日動火災保険株式会社	6,498	1.36
双日株式会社	6,183	1.29
日本興亜損害保険株式会社	5,362	1.12

会社の概要(平成20年9月30日現在)

社名 ユニチカ株式会社
 創立 明治22年6月19日
 資本金 23,798,450,000円
 本店 兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
 大阪本社 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号(〒541-8566)
 電話06-6281-5722 (人事総務部法務グループ)
 東京本社 東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号(〒103-8321)
 電話03-3246-7540 (東京総務部)
 研究所 中央研究所(宇治)
 事業所 貝塚事業所・垂井事業所・豊橋事業所・常盤事業所
 宮川事業所・坂越事業所・宇治事業所・岡崎事業所
 営業所 名古屋・京都 他
 従業員数 連結 5,556名 単体 1,200名

役員(平成20年9月30日現在)

取締役会長	江藤紀海
代表取締役社長	大西音文
代表取締役専務執行役員	安江健治
代表取締役常務執行役員	中木明郎
取締役常務執行役員	徳沢太郎
取締役上席執行役員	菅原健一
取締役上席執行役員	村上正利
取締役上席執行役員	大濱二三夫
取締役上席執行役員	注連浩行
監査役(常勤)	伊藤久雄
監査役	池澤正明
監査役	内藤碩昭*
監査役	半林亨*

*は社外監査役

執行役員(平成20年9月30日現在)

上席執行役員	津川優
上席執行役員	松永卓郎
上席執行役員	荒木卓
執行役員	田中正一郎
執行役員	吉田俊朗
執行役員	奥田泰三
執行役員	田頭弘美
執行役員	清水芳樹
執行役員	松本哲夫
執行役員	立石清一

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
定時株主総会	毎年6月	同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行業部 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号(〒530-0004) 電話(通話料無料)0120-094-777
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日	同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 本・支店 野村證券株式会社 本・支店、営業所
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載) http://www.unitika.co.jp/notice/index.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する。		

株主関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行業部) インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
0120-684-479 (大阪証券代行業部)

【平成21年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせ】

株券電子化前後における単元未満株式買取・買増のご請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求及び買増請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご注意ください。

(1) 証券保管振替制度をご利用でない単元未満株式に関するご請求

① 単元未満株式買取請求

平成21年1月5日(月)から平成21年1月25日(日)までは、受付をいたしません。また、平成20年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日(金)とさせていただきます。

② 単元未満株式買増請求

平成20年12月12日(金)から平成21年1月25日(日)までは、受付をいたしません。

(2) 証券保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するご請求

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社で取次ぎを行わないと承っております。具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

